



いくぞ! 阿部組ロケット号



新恐竜



ポケモンGO!



しほ子号

自慢のそりで優勝めざし大爆走!

2月16日、「第37回ナウマン全道そり大会」が忠類白銀台スキー場で行われ、ロケットや恐竜など、ユニークなテーマの段ボール製のそり23台が参加し、スピードとデザインを競いました。今年は小雪が舞う中での開催でしたが、参加者の思い思いのパフォーマンスに、競技を見守る観客から笑い声と歓声があがっていました。

競技後には、忠類埋蔵金伝説にちなみ、雪の上に散らばったお宝入りの金塊(ティッシュボックス)を探る「忠類埋蔵金拾い」が行われ、特賞として純金2.5グラムが隠されていた大人の部では、例年以上の盛り上がりを見せていました。



滝川×アルゼンチンパラカヌー号



サンマクシオン



更別ベース



連邦の白いあくま



くぼみはゾウの足跡!

昨年の10月29日～11月2日にナウマンゾウ化石発掘跡地で行われた「足跡化石再発掘調査」で見発見されていた2つのくぼみが、ナウマンゾウの足跡の化石だと判明しました。

2つのくぼみは、滋賀県足跡化石研究会の岡村喜明会長に鑑定を依頼していたもので発見した足跡の型や発掘現場の写真などから、ゾウのひづめ、かかとの跡を確認、大きさを推定し「ナウマンゾウの成獣」と判断されました。

発見された位置から、全身化石骨が発見されたナウマンゾウと同じ約12万年前の足跡化石と推定されています。

北海道でナウマンゾウの足跡が発見されたのは2例目。複数の足跡が発見されたのは初めてのことで、忠類ナウマン象発掘跡地の貴重さが再認識されました。



足跡1



足跡2

次世代と共有して 次の50年へ

2月19日に忠類ナウマン象記念館で「2019発掘調査報告会」が行われました。

報告会では、今回の発掘調査に参加した添田雄二氏(北海道博物館学芸員)と澤村寛氏(足寄動物化石博物館)が、調査の概要や今回の発見をふまえた十勝の化石環境について話しました。

講演では、今回の発掘の成果として「足跡の大きさから体の大きさや年齢、群れで生息していたことが推測できたこと」、「約12万年前の化石記録は北海道では少なく、当時の北海道の動物群を探る上で、学術的に非常に価値のある発見となったこと。」などが発表されました。

添田氏は「広い範囲の発掘をしたい。12万年前のデータはとても貴重なもの。広く掘ることができれば、更なるゾウや他の動物の足跡、骨の化石の発見も期待できる。研究者だけではなく、地元の小学生などの次世代を担う子ども達も巻き込んで100周年に向けて盛り上げていきたい。」と更なる発掘への意欲を語っていました。



▲発掘した足跡のレプリカ